

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和6年(2024年)

10-11月号

(通巻 214号)

2024年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

アナグマ

長田谷津のセンサーカメラに写りました。詳しく調べたいとも思いますが、そっとしておく方がよさそうですね。

P1  いきもの写真館
アナグマ

P2  肌感覚の気象の記録
肌感覚の10月と11月
/ 3

P4  花を透明にして観る
イネ

P5  長田谷津のとりたち
コゲラ

P6  くすのきのあるバス通りから
イラガの思い出

P6  展示室 飼育生物の話題
ヤマトオサガニのえさ

P7  わたしの観察ノート
7~8月の記録

P8  ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。





肌感覚の気象の記録



自然博物館では、日々の自然観察の記録を「自然観察週報」としてまとめ、webサイトで公開しています。自然観察週報には、週単位の気象の記録もあります。数値ではなく、自分たちが体験した気象を文字で書いた記録です。科学的とは言えませんが、生活実感には近い内容になっています。

肌感覚の10月

10月と11月は夏から冬へ移り変わる季節です。毎日の天気は入れ替わりますが、全体的には晴れ・雨を繰り返しながら寒くなっていきます。

10月は夏の暑さが影を潜め、昼間はさわやかでも朝晩は肌寒い、という月です。2018年の記述では、第1週から順に次のようになっています。

晴れたり曇ったり、雨が降ったり、秋らしい変化のある天気でした。最高気温が30℃を越す日もほとんどなく、過ごしやすくなりました。
(2018年10月1週)

曇りがちの日が多い週でした。最高気温は20℃を超える程度で過ごしやすくなりました。(2018年10月2週)

朝晩は肌寒くなりました。空にはうろこ雲が見られました。(2018年10月3週)

秋晴れの日が多い週でした。朝晩は寒くても、日中は暖かくなりました。(2018年10月4週)

2021年の記述は次のようです。

日中は陽射しがあり汗ばむ陽気でした。朝晩はめっきり涼しくなりました。(2021年10月1週)

10月というのに、昼間はほぼ半袖で過ごしました。そのことに気づいたら、報道でも暖かい10月として取り上げられていました。(2021年10

月2週)

暖かい10月は終わりました。最低気温が10℃を下回る日がありました。(2021年10月3週)

まとまった雨が降った日もありましたが、秋を楽しめる日もありました。(2021年10月4週)

最高気温が20℃を越す日が4日もありました。そのほかの日も暖かく、屋外は快適でした。(2021年10月5週)

ただ10月は、9月と合わせて台風のみです。最近では2019年(令和元年)9月の台風第15号、10月の第19号、第21号が記憶に新しいところです。

第15号は、2019年9月9日に千葉県付近に上陸した「強い台風」です。関東各地で記録的な暴風となり、千葉アメダスで最大瞬間風速57.5m/sの観測史上1位の風が記録されました。房総半島を中心に、住宅の屋根が吹き飛び、ゴルフ練習場の柱が倒壊して民家を直撃し、送電鉄塔が倒壊する被害が発生しました。市川市でも北部で樹木の倒壊が頻発しました。

第19号は、10月12日に伊豆半島に上陸した「大型で強い」台風です。関東地方を通過して東北の太平洋側に抜けるコースとなったため、関東甲信越および東北地方の広い範囲で記録的な大雨となりました。1都12県に大雨特別警報が出され、伊豆諸島や静岡県、神奈川県で過去の最

高潮位を越える高潮が観測され、阿武隈川や千曲川などの国管理河川で12か所、その支流などの県管理河川で128か所の堤防決壊が発生しました。北陸新幹線の車両基地が浸水した映像は衝撃でした。

第21号は、10月24日から26日にかけて日本の太平洋岸を進んだ低気圧に、日本の東海上から湿った空気を送り込んだ台風です。千葉県や福島県で記録的な大雨となり、船橋アメダスでは10月25日の1日の降水量が147mmを記録しました。県内各地で大きな被害が発生しました。

2019年10月の記述です。

週末の12日夜に台風第19号が伊豆半島に上陸し、13日未明にかけて関東から東北へと通過し、大きな被害が出ました。記録的な大雨が各地に降り、中小の河川だけでなく大規模河川でも堤防決壊や越水がありました。(2019年10月1週)

台風が通過したあとには青空が広がりました。天気が回復して被害の大きさが明らかになっていき、衝撃的でした。(2019年10月2週)

大きな被害をもたらした台風第19号のあとも、被災地などにまとまった雨が降りました。さらに25日は、関東の東海上の台風第21号の影響などで千葉県を中心に大雨が降り、茂原市など各地で浸水被害が発生しました。(2019年10月3週)

雨ばかりだった10月の最後は、ようやく秋晴れになりました。10月が終わるころに、やっと10月らしい気候になりました。(2019年10月4週)

肌感覚の11月

11月は冬の要素が現れる月です。木々の葉が落ち、日没も早くなります。ただ、年によって同じ週でも違いがあります。同じ11月1週の記述でもずいぶん違います。

雨降りの日は、朝晩、肌寒く感じました。本格

的な冬物の上着が目立つようになりました。
(2018年11月1週)

日中は、よく晴れた暖かい日が多くありました。報道では、「小春日和」と表現されていました。
(2022年11月1週)

11月7日の最高気温は摂氏26.2度で、10日は18.0度でした(船橋アメダス)。年間を通じて、暑さ寒さが極端な印象です。(2023年11月1週)

晴れや雨、暖かい日や寒い日など、気象のようすが日替わりで変化しながら、確実に冬に向かっていきます。

晴れの日が続き、その中で大雨の1日がありました。前後の天気が良い分、この日に出かける予定だった人は恨めしかったかもしれません。
(2012年11月1週)

冷え込む日がある一方、小春日もありました。風が強くと、落ち葉がどさどさ落ちてきました。(2013年11月3週)

寒くて思わずストーブに手を伸ばす日がありました。モミジが色づきはじめました。(2014年11月1週)

晴れの日の日中は、暖かく感じられました。日没がすっかり早まり、日が落ちると冬を感じる日もありました。(2017年11月2週)

日脚が短くなり、朝もなかなか明るくなりません。暖かい日、寒い日を交えながら、冬を実感できた週でした。(2022年11月4週)

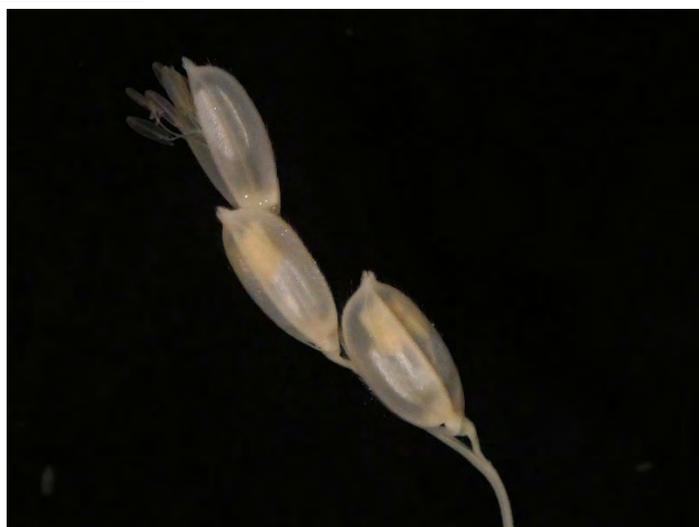
ちなみに、雪が降った年もありました。

24日に雪が降り、うっすら積もりました。都心の記録では11月の降雪は54年ぶり、積雪は観測史上はじめてだそうです。(2016年11月3週)

花を透明にして観る*****

イネ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしましますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしましますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



イネの花

- ・イネの花は、将来「もみガラ」になる2つの部品で包まれている。
- ・2つの部品は重なりを持ち、外側が大きく内側が小さい。外側を「外穎<がいえい>」、内側を「内穎<ないえい>」と呼び、外側は「護穎<ごえい>」と呼ぶこともある。
- ・写真では外穎と内穎が透け、内部の雄しべの葯(やく)が見えている。イネの花には雄しべが6本ある。カラー版だと、葯はクリーム色なのでわかりやすい。
- ・白く輝くように見えるのは雌しべの柱頭で、こちらはカラー版でも白く写っている。
- ・下の写真の先端の花は、葯が外に出ていて柱頭も上部まで伸びてきている。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

コゲラ

コゲラは東アジアの限られた地域に分布するキツツキの仲間です。大きさはスズメほどしかなく、日本では最小のキツツキです。北海道から沖縄まで日本全国で見ることができます。町中から山地の樹林まで広く生息しており、日本でもっともよくみられるキツツキです。長田谷津でも一年中見ることができ、「ギーギー」という特徴的な声をよく耳にします。木の幹や枝先を移動しては木をつつき、昆虫など小さな動物を食べています。また意外に思われるかもしれませんが、木の実を食べる姿も見かけます。



ハリギリの実を食べるコゲラ
(2018年12月17日 長田谷津)

コゲラのオスとメス

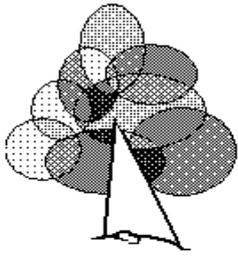
コゲラを外見上でオス・メスを見分けるのは簡単なようで難しいです。見分ける方法は、頭の後ろに赤い羽毛があればオスです。簡単な識別方法と思えますが、この赤い羽毛は、角度によっては見えないこともあります。また、他の羽毛に埋もれていることもあり、双眼鏡でみてもわからないことが多いです。撮影した写真で、赤い羽毛に気が付くこともあります。赤い羽毛が見えればオスですが、ないからといってメスではなく、赤い羽毛が隠れているだけのオスかもしれません。



頭の後ろの赤い羽毛が見えているコゲラのオス
(2020年3月24日 長田谷津)



赤い羽毛が数本見える



イラガの思い出

今年の夏も、暑い日が続きました。庭のネムノキは、剪定の時期が悪かったのか、枝が長く伸び、花が咲きませんでした。強い風の日、2~3本枝が折れていました。キチョウが飛び交っています。

カラスビシャクの葉が、セスジスズメの幼虫に食べられてしまいました。幼虫をヤブガラシに移そうとしたら、緑色のフンを出し、体全体がヌルヌルしました。「傷つけてしまったか…」と、心配しました。自然博の方が「蛹になる前に余分な水分を出します」「大きかったですよ」と。

ご近所の庭木の葉がなくなり、すぐ下の塀には、きれいな黄緑色の、イラガの仲間がいました。買い物時、駐車場の隣の車を見ると、イラガの仲間がいました。イラガも蛹になる場所を探していたのでしょうか。「ベニカナメは虫がつかいませんよ」と外構工事の人にいわれ、かつて住んでいた家で、生垣にしました。自分で剪定をしていたら、感電したかと思うほどの痛みがありました。イラガに刺されたようでした。柿の葉にも、小さいイラガが、びっしりと付いていたこともありました。鳥もイラガは敬遠するとか…。

(M. M.)

No.58

展示室 飼育生物の話題

ヤマトオサガニのえさ

ヤマトオサガニは、泥っぼい干潟に多いカニです。市川市内の江戸川放水路で普通に見られ、むしろ数の多さに圧倒されてしまいます。博物館では大きめの水槽にサンゴ砂を敷き、ごく浅い水深で飼育展示しています。水槽を横からのぞくと、ちょうどヤマトオサガニと目が合います。

ヤマトオサガニは干潟の泥の表面に生える藻類を食べると言われています。泥をすくい取って口に運び、藻類をこしとって食べます。ただ、その状況は室内の水槽では再現できません。そのため、固形餌を粉にして与えています。ある時、アサリの殻について肉を食べていることに気づきました。いっしょに飼っているケフサイソガニ類のために入れたアサリです。藻類を食べる植物食のイメージだったので驚きました。



わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・中央水路で作業をしていると、オニヤンマが何回も頭の上を通りました(7/7)。
- ・アカガシの葉にとまるヘイケボタルを見つけました(7/17)。昼間に休んでる姿を見かけたのは初めてだったので驚きました。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・ボランティアの人たちとホトケドジョウの生息環境を整備するホトケドジョウ・レスキューを行いました(7/21)。網入れ調査では20匹が捕れ、大半が今春生まれでした。レスキューはうまくいっているようです。
- ・今年は、ホテル観賞会に予想を上回る人が来てくださっています。例年なら余裕がある平日も、人でいっぱい。にぎわいの向こうから、フクロウのゴロスケホーという声が聞こえました(7/26)。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・ホトトギスのオスの「キョッキョッキョッキョ」という声に呼応するように、メスの「ピピピピピ」という声が聞こえました(8/4)。オスもメスも飛び回っていました。繁殖の可能性が非常に高いと思います。托卵相手となるウグイスも、長田谷津では繁殖しています。

稲村優一

◆大町動物園内より

- ・曇天のすき間からの日差しを受けて、タマムシが飛んでいました(7/2)。とてもきれいでした。それとは別に飼育員さんが獣舎の壁にとまったタマムシを持ってきてくれました。

金子謙一

- ・クチナシの生垣の下に糞がたくさん落ちていました(8/17)。その上を見ると、大きなオオスカシバの幼虫がいました。
- ・園内の斜路で、センニンソウが綺麗な白い花を咲かせています(8/31)。その花に集まる昆虫を狙って、ハラビロカマキリが花の間で待ち伏せていました。

◆八幡より

- ・葛飾八幡宮の境内をジャコウアゲハがひらひらと飛んでいました(7/10)。近くに発生地があるのでしょうか。

以上 稲村優一

◆二俣より

- ・小学校に授業に行った際、校庭をひとまわり歩かせてもらいました。周囲に植えてあるポプラやマテバシイに数羽のオナガがいて、暑さに負けず大きな声で鳴いていました(7/10)。

◆末広より

- ・イベントで行徳図書館に行きました。駐車場では、遠くからクマゼミの声が聞こえてきました(8/18)。

◆江戸川より

- ・ヒヌマイトトンボ生息地のヨシ原でニガクサを確認しました(7/18)。花は終わりかけでした。ほかに、シロバナサクラタデ、シロネの開花も確認し、生い茂るゴキヅルも見ることができました。これらの種類は、このヨシ原によって結果的に保全されています。

以上 金子謙一

厳しい猛暑で、今夏の平均気温は記録的な高温となりました。雨は多く花壇の水やりは心配ありませんでした。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ ご利用案内
- ・ 展示紹介、詳しい解説
- ・ 行事案内
- ・ 自然観察の記録、オリジナル動画
- ・ 博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園の
もともとの呼び名です。

○長田谷津散策会(申し込み不要・荒天中止)

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしていただきませんか
(要問合せ・荒天中止)

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。
たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時
解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は

- ・ ・ ・ お電話で博物館までお問合せください。
- 湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
10月	19日 土曜日	27日 日曜日
11月	17日 日曜日	24日 日曜日
12月	14日 土曜日	22日 日曜日
1月	19日 日曜日	26日 日曜日
2月	15日 土曜日	23日 日曜日
3月	16日 日曜日	23日 日曜日

第37巻 第4号 (通巻第214号)

令和6年10月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477